

## 山取り苗と表土ブロックによる土場跡地の緑化

十勝東部森林管理署 宇遠別森林官 帆足 直也  
森林技術専門官 三間 武

### 1. 課題を取り上げた背景

十勝東部署管内では、毎年二百箇所以上の山元土場を利用してはいます。しかし、一部の土場跡地では天然更新による緑化が進まず、国有林を利用する方から、景観への配慮から緑化して欲しいとの声があり、施業方法を検討してきました。

その結果、次の二つを検討課題として取組むこととしました。

- ① 山取り苗を利用し低コストな土場跡地緑化方法
- ② 林内から採取した表土ブロックによる土場跡地緑化

また、クロエゾマツ及び広葉樹資源の保続と、エゾシカによる広葉樹の食害対策方法も同時に検討することとしました。

### 2. 取組みの経過

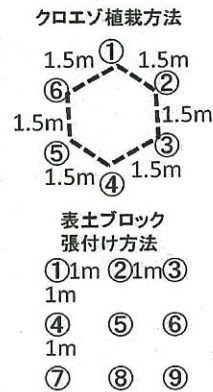
実施箇所は、平成17.18年の土場跡地で、陸別町国有林の「ふれあいの森」の入口に隣接し、林道脇の人目に付く2箇所の土場跡地を選定しました。

作業前に緑化予定の土場跡地の状況を調査したところ、裸地部分とアメリカオニアザミ、エゾノキツネアザミ、エビガライチゴ等の荒地の植物が繁茂していました。

このため、土場跡地の中で今後利用見込みがないと想定される箇所のうち260㎡について、6月7日試験的に緑化作業を実施しましたが、作業には、二つの森林事務所の9名で延べ4.5人工とバツクホウで3時間を要しました。

- ① 山取り苗は林道法面に自生する約40cmのクロエゾマツで1.5m 間隔の六角形を1組とし1土場54本合計108本植栽しました。

六角形の植栽としたのは、将来中心部にエゾマツの生長後 (1.5m)



に山取り広葉樹苗を植栽し、エゾシカの食害から守るためです。

- ② 表土ブロックは、隣接林内のミヤコザサやイヌタデ、ヨブスマ草、オシダ等の植生が繁茂した箇所から、バツクホウで30cm四方の表土を採取し、1m間隔の9個を1組で1土場36個合計72個張付けました。

### 3. 実行結果

6月7日の緑化作業後の経過は下表のとおりです。

### 4. 考察

区分		6 / 1 8	7 / 1 6	1 0 / 1	1 1 / 1 2
クロエゾ山取り苗	土場跡植栽箇所	新芽部分は全て枯れる	回復の兆し全体的顕著	100%活着	100%活着
	比較対象箇所	新芽部分は全て枯れる	回復に差が出る	3割程度が枯死	3割程度が枯死
	採取箇所			採取箇所は安定していた	
表土ブロック	土場跡張付け箇所	地上部は枯れている	若干回復の兆し有り	笹などが回復している	笹などが回復している
	林内採取箇所	若干回復している	回復の兆し全体的顕著	見分けがつかないほど回復	見分けがつかないほど回復

今回の山取り苗と表土ブロックによる土場跡地の緑化は、クロエゾマツの活着状況と植生の回復から、今後の利用方向が出せたと思います。

特に、林道法面に自生し、林道の障害となる貴重なクロエゾマツを利用したことにより、小規模な緑化に道を開く事ができました。

林地の表土ブロック利用も採取箇所の回復が確認できたことから、張り芝や緑化種子の播種に頼らない、荒地の早期回復緑化方法として利用できます。

今後も継続し調査を行い、土場跡地の緑化方法の確立に取り組めます。